

2025 年度

# 事業計画

2025年3月31日

学校法人 上智学院

## はじめに

学校法人上智学院は、高等教育部門・中等教育部門の各学校および法人運営に係る中長期計画として、2023年度から2030年度の8年間を対象期間とする「グラウンド・レイアウト 3.0-2030 に向けて」(以下 GL3.0) とその実施計画であるアクションプラン (以下、AP) を策定いたしました。2023年度からは GL3.0 と AP に基づく年度事業計画を立て実施することで、法人の設置する各学校の運営を行っております。

GL3.0 では、部門ごとに 2030 年までに達成を目指す様々な目標を掲げ、「2030 年に向けた『10』のコミットメント」として具体的に提示しています。本「コミットメント」に示したように、デジタル・グリーン環境・サステナビリティなどの技術革新・事業変革が目覚ましい時代にあっても、本学院が具現化すべき基本理念を堅持しつつ、学生・生徒・教職員が一体となって教育研究を着実に推し進め、社会・地域への貢献も果たしていくことを目指してまいります。

この GL3.0 の 3 年目に実施する年度計画として、以下の通り 2025 年度事業計画を策定いたしましたので、ここに公表いたします。

引き続き、本学院の各設置校の教育研究社会貢献の諸活動に一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

## 目次

グラウンド・レイアウト 3.0 概念図／コミットメント	3
部門別取り組みの柱	4
GL3.0 (部門計画・AP) および 2025 年度事業計画	
・大学部門	5
・短大部門	9
・中等教育部門	
栄光学園	10
六甲学院	12
広島学院	16
上智福岡	19
・法人部門	22
2025 年度予算編成の基本方針	24
2025 年度資金収支予算 (学院)	26
2025 年度事業活動収支予算 (学院)	27

# 上智学院中長期計画「グランド・レイアウト 3.0 -2030 に向けて-」

## 基本理念

「他者のために、他者とともに（For Others, With Others）」生きる人の育成  
「叡智（ソフィア）が世界をつなぐ / Sophia - Bringing the World Together」を基盤とした教育・研究・社会貢献の実現

## 部門共通・3つの方針

1. 基本理念の具現化（世界の課題解決に貢献する教育研究の実践）
2. 選ばれ続ける学校としてのエンゲージメントの強化
3. 持続的な発展のための財務基盤・運営体制強化

## 2030年に向けた「10」のコミットメント

MAGISを目指す

上智学院とその設置校は、イエズス会学校としてカトリック学校としての伝統を堅持し、その特色を活かしながら、世界の課題解決や社会変化に積極的に対応することで、より良い世界の創造・世界の調和に貢献し、卓越した存在を目指します。

### ① GX・SXの推進による共に暮らす家（地球）への配慮

- カーボンニュートラルの実現
- ラウダート・シ/UAPs
- 持続可能な未来の創造に貢献



### ② DXによる新たな教育研究運営へのシフト

- 教育DXの促進
- DXによる運営の効率化



### ③ 共生社会実現への貢献（課題解決に向けた教育・研究の展開）

- SDGs/ESG投資
- 人間の尊厳 / 社会正義
- 全ての人のウェルビーイング



### ④ グローカルにつなぐ（地域や世界につながるグローバルハブに）

- グローバルワンキャンパス
- グローバルネットワーク
- 世界水準の研究



### ⑤ 教育機会拡大への貢献（他者に寄り添い、未来へつなぐ教育の展開）

- 新たな社会人教育
- 産学共同プログラム
- 社会的弱者の支援と貢献



### ⑥ DEI&Bの推進（ひとりひとりを大切に、安心・安全な学校に）

- 構成員の安心・安全・ウェルビーイング
- 障がい者採用 / ウーマンエンパワーメント



### ⑦ 社会・地域連携：エンゲージメントの促進（ステークホルダーとの対話・発信・連携・共感）

- 地域・企業・社会との連携
- ステークホルダーとのコミュニケーション
- 他の学校とのアライアンス



### ⑧ 迅速・柔軟かつ効率的な運営（マネジメントの精査）

- ガバナンス改革
- コンプライアンス
- データドリブンマネジメント



### ⑨ 学内融合と連動：エンゲージメントの強化（学校間の連携、教学・法人の連動）

- 各学校の連携
- 教学と人事・財務・施設・ICTの連動



### ⑩ 全員参加とコミットメント（ソフィアファミリー全構成員の共同識別と協働）

- 構成員への説明と意見聴取
- 学生・生徒（若者）とともに



# 【部門別】取り組みの柱

## 大学部門

**Pride in Sophia Quality**：人の育成、研究、グローバル社会への貢献という全方位に卓越するSophia Qualityの追求

・グローバル社会から信頼を得る総合大学として、世界水準の教育、研究を推進することにより、新しい社会の創造に貢献する  
 ・卓越したグローバル教育と、自らがデザインし個の基盤を深める多層的な学びの場を提供し、“他者に寄り添うリーダー”たるSophianを育成する  
 ・次世代教育・研究環境の確立、共生社会の具現化、ステークホルダーとの対話を通し、求心力のあるグローバル・ワンキャンパスを創成する

1. グローバルな視野とローカルな視点で他者に寄り添い、未来を創るSophianの育成
2. グローバル社会に貢献する世界水準の研究の推進・拠点の確立
3. サステナビリティを高水準で実現するグローバル・ワンキャンパスの確立
4. グローバル社会および多様なステークホルダーとの連携強化
5. 持続的発展を力強く支える組織、財務基盤の確立

## 短大部門

1. 地域社会の課題解決を目指す教育研究活動を実践する
2. 学生の進路選択を可能とする教育プログラムを充実する
3. 安定的な学校運営のための環境を整備する

## 中等教育部門

- I イエズス会学校であり続ける
- II 地域社会に魅力的な学校であり続ける
- III 教育環境／組織人員体制を整える

1. イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う
2. イエズス会教育を継承する、担い手を養成する
3. 上智大学との繋がりを持ち続ける

## 法人部門（学校法人運営基盤）

1. 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する  
(ラウダート・シを意識)
2. 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する
3. 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する
4. 組織力を高める人事政策を実行する

「2030年に向けた『10』のコミットメント」を実現するために、各部門が有機的に連携し施策を実施

大学部門

GL3.0(部門計画・アクションプラン)	2025年度事業計画
<b>1. グローバルな視野とローカルな視点で他者に寄り添い、未来を創るSophianの育成</b>	
<b>(1) 学び続け、主体的に考え行動する力を育てるSophia型「基盤教育」の確立</b>	
<p>① 全学共通、語学、学科科目の有機的連携を実現し、社会情勢や学生の様々な希望進路のニーズに応え得る、基盤教育を確立する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度カリキュラム提出時から導入した「カリキュラム点検チェックリスト」の内容検証と次年度カリキュラム・ガイドラインへの反映</li> <li>・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー作成による既存科目の整理と新設科目の具体的提案</li> <li>・理工新学科を念頭においた全学共通英語(選択)科目充実に向けた検証</li> <li>・社会の要請に応じた科目(文理横断的な科目、地域連携に係る科目等)新設に係る検証</li> <li>・ソフィア・インターコンチネンタル・プログラムのパイロット実施/プログラムの振り返り、科目化の検討</li> <li>・国際機関インターンシップ1件追加</li> <li>・前年度パイロット実施し科目化する海外短期プログラムの実施(2件)</li> <li>・必修科目Academic Communicationの改善検討継続、2026年度実施に向けた2025年度パイロット実施</li> <li>・Academic Communicationのカリキュラム改革の効果的な推進のための英語カリキュラム委員会での全教員参加FDの再開</li> <li>・履修動向の適切な分析による、英語選択科目・初習言語オプション科目のカリキュラム改善</li> </ul>
<p>② 学生の自律した学びのデザインをサポートする、科目の体系化の推進、充実を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤教育推進室および一部の全学共通科目担当教員と連携した、複数の科目内での学生のデータ入力促進の検討</li> <li>・他のポートフォリオに関する情報の収集、システムの移行の可能性および2026年度特別予算への具体的な計画の検討</li> <li>・学生が自身のキャリアを見据えた主体的な学びをサポートするための「履修の手引き(改訂版)」の作成</li> <li>・全学共通DPおよびCP、「カリキュラム・マップ」、「カリキュラム・ツリー」に係る学生の理解促進に向けた各学部・センターとの連携方策の検討</li> <li>・変化する社会や学生のニーズに対応し得る全学共通、語学、学科科目連携の履修モデルの検討</li> <li>・学部・学科カリキュラムにおけるCLER開講科目の一層の組入・活用の促進</li> </ul>
<p>③ 学修時間や学びの深さを確保するため、科目数削減等を視野に入れたカリキュラムの再構築を検討、実践する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生の深い学びと単位実質化のための施策検討分科会」の答申を踏まえた、2025年度内の大学方針の決定に伴う具体的な施策の実施</li> <li>・教育企画小委員会の答申を踏まえた新たな成績評価ガイドラインの実施に伴う教務関連の施策の検討</li> <li>・各学部、研究科で検討された新たな3つのポリシーに沿って構築されたカリキュラムに関する検証</li> <li>・過年度の成績分布および履修状況等を踏まえたカテゴリー・レベルごとの科目再配置の検証</li> <li>・全学共通必修科目「課題・視座・立場性を考える」の2026年度改訂に向けたWG設置と検討</li> </ul>
<p>④ 多様な進路を視野に入れた大学院教育および体制のあり方について、専攻の特性を活かした対応策を立案のうえ実行する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部進学者を増やすための方策の検討</li> <li>・各研究科に検討を促すための切り口、柱となる内容の作成・発信</li> </ul>
<b>(2) 多角的・俯瞰的視座の醸成に向けた学びや経験の場の提供と、全世界へのフィールド展開</b>	
<p>① 現代社会の課題に取り組む多様な実践型プログラムを構築し、より多くの学生へ機会を提供する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の教育精神を体現しうる全学共通科目の検討</li> <li>・2023年度教育イノベーション採択プログラムの科目化</li> <li>・教員が交代する実践型プログラムの円滑な引継ぎと実施</li> <li>・新規実践型プログラム4件立ち上げ</li> <li>・次年度に向けた新規実践型プログラム検討2件</li> <li>・2025年度「大学の世界展開力強化事業」申請検討</li> <li>・具体的な実施計画が生じた場合、当該地域の言語に通じた立場からの協力</li> </ul>
<p>② 国内外の大学との連携を深化し、学部、大学院における多様な教育、研究活動を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香港教育大学とのダブル・ディグリープログラムの実施に伴う学事関連事項の振り返りと、更なる新規プログラムに備えた学事関連の対応検討</li> <li>・海外大学とのダブル・ディグリープログラムの実施に伴う学費システムの運用の検討</li> <li>・連携を深化させたい協定校候補の検討・協議</li> <li>・実績のない協定の終了等整理</li> <li>・国際会議、協定校来訪時面会での情報収集</li> <li>・大学院特別進学制度、3+2プログラム協定締結候補大学の調査・選定</li> <li>・ダブル・ディグリー/ジョイント・ディグリー・プログラム提携大学の増設検討</li> </ul>
<p>③ 次世代の教育方法の開発と検証を推進するとともに、柔軟な授業展開の仕組みを構築する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育DX検討に向けた体制構築の検討</li> <li>・FD委員会、基盤教育センター教育開発領域との学術関連の課題に関する共有・議論、FD活動や具体的な施策の検討・実施</li> <li>・FD委員会と基盤教育センター教育開発領域間での連携によるFDセミナーの企画と実施</li> <li>・オンライン科目に係る実践の検証と学内共有に向けた検討</li> <li>・COILやオンライン、海外大学・機関との連携等を活用したグローバル教育授業数増加に向けた周知・促進のためのFDイベントの実施</li> <li>・COILやオンライン、海外大学・機関との連携等を活用したグローバル教育授業数増加に向けた検討</li> <li>・デジタル技術の授業へのいっそうの活用とオンデマンド教材の作成・充実の検討</li> </ul>
<p>④ ボランティアや教育プログラム等を含む多様な課外活動の充実を図り、教育精神の涵養とともに人間的な成長を促進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動支援、課外活動団体支援等の拡充</li> <li>・効果検証や成長実感にもとづく課外教育プログラムの整理と見直し</li> <li>・教育精神の体現につながる学びや企画の充実と対外発信の強化</li> </ul>

<b>(3) 高校生-大学生-社会人の多層的な学びの実現</b>	
① 本学の特色を活かした教育プログラムを開発、展開し、年齢や国籍等を問わず学びの欲求に応える体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プロフェッショナル・スタディーズ」の会員企業増と黒字維持をもとにした、安定した事業基盤の確保</li> <li>・「地球市民講座」のコンテンツ拡充と収支黒字化</li> <li>・UC Berkeley Haasビジネススクール連携「短期ビジネスコース」の継続稼働と集客ルートの確保</li> <li>・「アントレプレナーシップ養成講座」の安定的な事業運営と併行した、「Sophia Entrepreneurship Network (SEN)」の本格稼働と効果的なプログラムの始動</li> <li>・国際協力人材育成センター (SHRIC) と連携した高校生向けプログラム「ソフィア未来塾」の継続運営を含めた、新規イベントの具体検討と情宣強化</li> <li>・国際協力人材育成センター (SHRIC) と連携した国連WEEKS、アフリカWEEKS、模擬AU等の対外向けイベントの集客増と満足度の向上</li> <li>・Sophia GEDと連携した高校生向けプログラム「タイ・スタディツアー」の安定した継続展開</li> <li>・宇検村・日本航空・伊藤忠商事との大学生向け「エコ・スタディツアー」の教育プログラムとしての運営確立と継続実施</li> </ul>
<b>2. グローバル社会に貢献する世界水準の研究の推進・拠点の確立</b>	
<b>(1) 高水準の研究の推進と、それを支える人的および組織的体制の増強</b>	
① 高水準、分野横断型の研究申請から採択後までを包括的に支援する事務体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点支援プロジェクト・研究者への支援強化策の検討と推進</li> <li>・全学的な科研費申請数・獲得額の拡大(特に大型案件)のための施策の検討と推進</li> </ul>
② 国際共同研究推奨施策を拡充する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに加盟するRENKEI(日英大学間連携プログラム)での参加大学との関係構築と本学研究者への国際的な学術交流機会提供の開拓</li> </ul>
③ 研究費獲得、研究マッチング、研究遂行を支援・推進するURA(University Research Administrator)を配置する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・URAチームの人員増強と機能強化</li> </ul>
④ 教育・研究・大学運営・社会貢献のよりよいバランスを考慮した上で教員の研究時間を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パイアウト制度の運用状況のレビュー・更新および学内助成による類似の仕組みの検討</li> </ul>
⑤ 研究機構、附置研究所における中長期研究計画の策定とモニタリング体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究所(附置研究所を含む)の位置づけを明確にした上での、研究計画策定と研究成果の評価体制の検討</li> </ul>
<b>(2) 時代・社会の課題に応える本学の特色を生かした研究の推進</b>	
① 時代や社会の要請に加え、現代のカトリック教会やイエズス会が取り上げる課題の解決に資する世界水準の研究を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門機関を活用した英語論文投稿促進支援策の推進</li> </ul>
② 多様な分野・組織間の連携促進による分野横断型研究を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の研究を先導する研究拠点形成に係る戦略の決定と推進</li> </ul>
③ 既存の国際研究ネットワークも活用し、本学の特色を生かした研究拠点を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の研究を先導する研究拠点形成に係る戦略の決定と推進</li> </ul>
④ 研究成果の公表および発信を強化し、研究力のレピュテーション向上を実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学教員の発表論文に関するプレスリリースをはじめとする広報施策の促進</li> <li>・Read &amp; Publish(R&amp;P)契約の拡充によるOA論文投稿の促進</li> </ul>
<b>(3) 若手研究者、女性研究者支援の促進</b>	
① 博士課程学生をはじめとする若手研究者および女性研究者支援制度を拡充する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPRING事業による院生向け高度キャリアプログラムの拡充とキャリア支援の強化</li> <li>・大学院生研究支援制度の拡充策の検討</li> <li>・若手および女性の有望研究者への支援策の検討と推進</li> </ul>
② 研究倫理、研究公正、各種法令等に係る教育・支援体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員に対する5年に一度の一斉研究倫理教育の確実な実施</li> <li>・研究インテグリティにかかる学内制度・体制の構築</li> </ul>
<b>3. サステナビリティを高水準で実現するグローバル・ワンキャンパスの確立</b>	
<b>(1) 多様性を尊重し、すべての立場の構成員が心地よく学び、働くことができる環境の確立</b>	
① 差別や偏見、ハラスメントのない誰にとっても安心できるキャンパスを構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FDなどを通じたハラスメント防止研修会の実施</li> <li>・学生アプリの活用など、気軽に相談できる窓口導線の確保</li> </ul>
② ワンキャンパスを活かした多様な学生間の交流機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生職員による、LLC(Language Learning Commons)やSSIC(Sophia Student Integration Commons)を活用したイベントの実施</li> <li>・学生団体と留学生の交流イベント実施支援</li> <li>・SSIC(Sophia Student Integration Commons)で展開している学生交流企画の効果検証と整理</li> <li>・国際寮の教育プログラムの充実および成長実感の確認</li> </ul>
③ 共生社会が実現されるキャンパス環境の整備を行う(合理的配慮も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係部署と連携した、障がい者差別解消法の改正に伴う施策の振り返りと新たな実施体制の検討</li> <li>・合理的配慮の再周知と適切な対応</li> <li>・氏名変更にかかる手続き、規程の整備</li> </ul>
④ ひとりひとりが個性を発揮し、自らの人生を切り開くキャリア支援施策を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院生向けガイダンスの強化</li> <li>・個別相談数の増枠(学部・大学院)</li> <li>・博士後期課程進路把握率向上に向けた施策検討</li> </ul>
<b>(2) サステナビリティ推進のための体制充実および取り組みの高度化</b>	
① 多様な学生が心身ともに健やかに学生生活をおくるための支援体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語対応カウンセラーの増員</li> <li>・婦人科相談の定期的な実施</li> <li>・メンタルケアの強化</li> <li>・法律相談や学外講師による啓発セミナーの継続的な実施</li> <li>・学生相談室の増室を含む新執務室の検討および他大学等の視察・ヒアリング</li> </ul>
② 学生の学びや社会情勢により柔軟に対応する奨学金制度を設計する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の施策拡充を踏まえた支援ニーズの検証の継続</li> <li>・メリットベース(成績優秀者・大学院生・留学生等)支援の充実と振り返り</li> <li>・各種奨学金の整理・統合の検討</li> </ul>
③ 学生が提案する新たな取り組み等を実現に導く仕組みと学生および教職員(学教職)の更なる協働体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が企画する提案について精査する観点(継続性や学生の成長に資する内容であるか等)の整理と支援方法の検討</li> <li>・学教職協働プロジェクトや学生の力を積極的に取り入れた取り組みの促進</li> </ul>

<b>(3) グローバル・ハブとしてのキャンパス機能のさらなる拡充と、最新のICTを活用したキャンパス環境の整備</b>	
① 学生サービスの向上や環境に配慮した情報管理のICT化を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEBキャリアセンター(キャリアセンターHP)のリニューアル</li> <li>課外活動団体の施設利用申請システムの効果検証</li> <li>学生アプリ「My sophia」との接続による、健診情報確認や健診予約機能の実現</li> <li>健康管理システムの利活用</li> <li>新規の証明書発行サービスの導入(デジタル証明書の導入)</li> </ul>
② オンライン授業環境を充実させるとともに、ICTの進展にあわせた教育DX(新たな教育環境の整備等)を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術認証フェデレーション導入による学外システム・データベース等の利便性向上</li> <li>BYOD促進に向けた仮想コンピュータ教室の試行運用</li> </ul>
③ 研究データ管理、研究インフラ整備、研究コミュニティの醸成などにおける研究DXの取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究者向け研究支援情報ポータルサイトの構築</li> <li>研究データマネジメントポリシーに基づく運用方法の検討</li> <li>オープンアクセスポリシーの策定</li> <li>研究データ管理システムにつながる学術認証フェデレーションの導入</li> </ul>
④ 図書館の学術情報収集・蓄積・提供機能の高度化に対応する	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術情報の電子化の推進(紙資料から電子資料へ転換、電子資料の優先購入など)と提供情報の質の維持</li> <li>図書館PCルーム廃止後スペースの再活用準備と運用開始(2025年9月)</li> <li>機関リポジトリのWEKO3(JAIRO Cloud)への移行と運用開始(2025年9月)</li> <li>図書館ホームページの改修と運用開始</li> <li>図書館システム・OPACの改修と運用開始</li> <li>図書館システムのSINET接続への対応</li> <li>学術情報の集積、管理、発信機能の強化に向けた専任職員を中心とした人材の確保と育成</li> </ul>
<b>4. グローバル社会および多様なステークホルダーとの連携強化</b>	
<b>(1) 多様なステークホルダーとの対話の充実</b>	
① 卒業生とのネットワーク強化を含む、ステークホルダー・エンゲージメントを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生・仕事・生き方といったテーマを広く構えた、ソフィアンによる、主対象を卒業生とした「卒業生ヒストリー(仮称)」のオンデマンド配信の定着化</li> <li>若年層の卒業生との接点構築とイベントへの参画促進</li> <li>卒業生、保証人(後援会会員含む)、学生との対話を増やす企画、また、卒業生の多様なネットワークを活用した企画の実施</li> <li>卒業生やソフィア会など多様なネットワークを活用した企画や学生支援の実施</li> <li>ソフィア会と共催でのOBOG交流会の実施(年2回)</li> </ul>
② 近隣地域における知と活動の拠点として、自治体に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣機関(東京都・千代田区・麹町消防署・麹町警察等)との連携による、学生の実践を通じた社会貢献の実施</li> <li>近隣機関(東京都・千代田区・麹町消防署・麹町警察等)との連携による、学生の実践を通じた社会貢献の充実と対外発信の強化</li> </ul>
<b>(2) IRおよび広報機能の強化によるレピュテーションマネジメントの実践</b>	
① IRを活用したエビデンスに基づく決定と検証を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科への検証用情報提供の推進(各種調査結果や10指標の他、個別の分析リクエストを受け、年間10件程度を提供)</li> <li>研究推進センター・URAチームと連携した、研究推進・研究広報に関連する施策の立案</li> <li>研究者データレイクの構築</li> </ul>
② グローバル・レピュテーション向上のための戦略的取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業からのレピュテーション向上のための施策実施</li> <li>研究推進センター・URAチームと連携した、研究データ分析用のデータ基盤構築</li> <li>新学長プロモーション活動の推進</li> <li>本学教員の研究活動にかかわる取組・成果に関する発信</li> </ul>
③ 志の高い志願者の確保や、入学者の多様性を広げるための取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の各種入試制度の再評価、整理統合および再構築へ向けた全学の合意形成</li> <li>AAA、AA制度をも活用した、国内外でのさらなる広報活動展開、拡充</li> <li>理工新学科設置届出における入学意向調査の実施</li> <li>国内外向け大学紹介動画の作成</li> <li>教員インタビューシリーズ等Webコンテンツ制作による発信強化</li> <li>THEおよびQSサイトでの本学情報提供の充実</li> <li>2027年4月開設予定である理工学部新学科プロモーションの推進</li> </ul>
④ イエズス会中高4校および国内外の中等教育機関との連携を強化する取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>カトリック高校連携協定校との企画の充実に向けた検討</li> <li>入学センターで取り組むべき施策検討のための、イエズス会中高各校への訪問あるいは個別の打ち合わせ実施</li> <li>イエズス会4中高との年間2回の連携企画の実現</li> </ul>
<b>(3) 社会の課題解決に向けた産官および市民社会との協働の積極的推進</b>	
① 地域、企業、団体等と連携した先駆的取り組みを推進し、社会課題の解決に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> <li>産学連携の大型化による研究拠点プロジェクトの形成</li> <li>大学発スタートアップ創出に向けた学内有望シーズに関する調査・分析と学内支援体制の構築</li> </ul>
② カトリック大学、イエズス会大学との連携を深化させ、教育研究を通じたグローバル社会の課題解決の取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルリーダーシップ・プログラムのホスト開催</li> <li>AJCU-AP学長会議のエリザベト音楽大学(日本)開催時の補佐によるAJCU-AP内の人的交流ネットワークの深化</li> <li>国際会議・シンポジウムの開催(AJCU-AP学長会議を含め、1回以上開催予定)</li> <li>ウクライナ受入れ学生の修業年限終了時までの支援(継続)</li> <li>アフリカ開発銀行によるJADS奨学金での学生受入れの実現</li> <li>国際研究ネットワーク(SACRU、MIRAI、RENKED)の活用</li> </ul>

<b>5. 持続的発展を力強く支える組織、財務基盤の確立</b>	
<b>(1) Sophia Qualityを実現する教学組織の確立</b>	
①中長期計画を着実に推進できる教学組織のあるべき将来像を検討する	・学長のイニシアティブのもとにおける、大学全体としての戦略的取り組みの企画・推進を行う体制の整備
②教育や研究のコーディネーターや支援、戦略推進に特化した教職員の拡充、および特命を帯びた教育・研究・社会貢献・大学運営で活躍する教員の負担軽減の仕組み等を図る	・基幹教員制度導入のための運用ルール、システム改修等具体的な検討および整備 ・専門人材のニーズ把握と制度の検討 ・教員の事務負担軽減に資する新たな支援体制の構築と運用、学科事務室機能強化の検討 ・教員の研究支援、促進のための新たな施策の検討
③大学諸施策の理解向上に努め、学部を超えた教職員間、大学業務を担当する部局間、教職員間におけるコミュニケーションを活性化させる	・コミュニケーションの場の提供の検証と新たな教職協働の在り方の検討 ・教学説明会、全学協議会等を活用した情報共有および対話機会の設定 ・大学のグローバル戦略推進会議、Advisory Committee実施等を通じた学内各所の状況把握と連携強化への調整および大学のグローバル施策案の策定
④教育・研究の質保証に係るPDCAサイクル・マネジメント体制を確立する	・関係部署と連携したPDCAにおける外部評価体制の確立 ・3つのポリシーの見直しに係る取組みの継続 ・認証評価結果を踏まえた内部質保証体制の検証と整備 ・2026年度自己点検評価実施に向けた基本計画と実施要領の策定
<b>(2) 持続的発展のための投資と大学運営の健全性のバランスを考慮した、短・中・長期を見据えた自律的財務・人事施策の確立</b>	
①様々な取り組みの優先順位を明確化し、持続的な大学運営に資する経営資源の管理体制を構築する	・事業の検証(収支を含めた振り返り)と継続方針の策定 ・検討案件の整理とヒト・モノ・カネを見据えた優先順位の確定
②教職協働に基づく大学運営体制を構築し、大学が取り組む事業へ戦略的に経営資源を配分する	・戦略的事案の策定と検証
③大学部門の中長期の人件費管理のあり方についての再検討を行う	・中長期の人件費の在り方に係る指針の確定
④教育資源の最適配置を行う	・業務分析に基づいた効率化・スリム化を実現する教学組織の支援強化
<b>(3) 教育・研究の新展開、学生支援、社会貢献を充実させるための事業立案と資金調達の実現</b>	
①教育・研究における新展開、学生支援、社会貢献のための人的・財務的資源を生み出す	・研究費執行における「ファカルティサポートデスク」設置・運営による教員の事務負担軽減および研究時間確保
②収益源の多様化を図るべく、教育事業の展開や寄付獲得のための推進体制を増強する	・SFDP事業全体のバランスの取れた収支構造へのシフト ・「プロフェッショナル・スタディーズ」に続く、収益性の高い教育事業の新規検討、および「地球市民講座」のバランスの取れた収支構造の確保に向けたコンテンツ刷新検討 ・大学オリジナルグッズを活用した卒業生、篤志家との積極的な関係構築

## 短大部門

GL3.0(部門計画・アクションプラン)	2025年度事業計画
<b>1. 地域社会の課題解決を目指す教育研究活動を実践する</b>	
①多文化共生推進のための教育プログラムを強化する	・学生数を考慮した活動規模での地域における児童英語教育活動の実施 ・同一法人下にある上智大学への児童英語教育活動継承の可能性検討
②多文化共生推進のためのサービス・ラーニング活動を強化する	・同一法人下にある上智大学への外国籍児童生徒・市民に対する日本語・教科学習支援活動継承の可能性検討
③多文化共生をテーマとした学内共同研究プロジェクトを確実に推進する	・「上智大学短期大学部サービスラーニングの総括および展開への取り組み」のテーマのもとでの、サービスラーニング活動に携わる教員による研究の推進および成果発信 ・研究成果を踏まえた、短期大学部としての活動全体を総括した冊子の発行
<b>2. 学生の進路選択を可能とする教育プログラムを充実する</b>	
①企業や編入学先大学で求められる水準まで英語力を強化する	・英語必修科目、英語選択必修科目、英語で学ぶ専門科目での学習とe-learningによる自発的な学習機会の提供
②キャリア講座を充実する	・キャリア講座参加状況等の情報共有によるアドバイザー教員との連携強化 ・リアクションペーパーの記入とそれに対するフィードバックという循環を活用した学生が効果を実感できる取り組みの継続 ・小論文フォローアップ講座の新設
③進路に関する個別相談を強化する	・進路資料室を活用した相談会の開催等、相談しやすい環境の整備 ・全ての就職希望学生に月1回メールや電話で面談の案内を発信する等、個別の働きかけの強化 ・担当ゼミの全編入希望学生への教員の指導強化 ・受験可能校などの情報提供の充実
④グローバル社会の課題解決を考える英語プログラムを強化する	・「上級英語スキルズ(SDGs)」をはじめとした特定のテーマやトピックを中心に、レベル別に展開する英語選択必修科目(英語スキルズ科目)の開講の維持
⑤学生の教養力と社会人基礎力獲得を目指し、読解力と文章作成力を育成する	・学生の読解力と文章作成力の向上を目的とする小冊子「レポートの書き方」と「本の読み方」を活用した専門科目「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」の実施
⑥社会が期待しているニーズを把握し、教育課程へ反映する	・学生のプレゼンテーション力や文章力の向上を目的とした専門科目「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」の実施
<b>3. 安定的な学校運営のための環境を整備する</b>	
①教育効果を高める学習環境の改善のため、同一法人下における施策の共有と標準化を行う	・同一法人下での教育環境維持と並行した、閉学に向けた準備と調整
②キャンパスの利活用推進のため、事業外収益を強化する	・事業外収益の増加を目指した、外部団体への積極的な施設貸出の継続

栄光学園

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画		
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2025年度	
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参与する雰囲気を学校内につくる	教職員研修会活用によるカトリック学校であることを学ぶ機会の設定		
					キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する	倫理科担当教員育成に関する協議の実施		
							イエズス会から派遣されている学校チャプレンとの倫理・宗教教育の検討継続	
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	ハラスメントのない学校環境をつくる	ハラスメントに関する教職員研修会開催の検討		
					教職員の働き方を検討する	新たな形での教職員の勤務時間管理の開始		
					Cura Personalisを徹底する	教員と生徒との面談機会拡大		
			(3)	Global市民の育成	生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する	海外大学進学希望者へのオリエンテーション及びガイダンス実施		
					生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける	英文推薦書作成サポート体制構築に向けたアドバイザーとの協議実施		
		生徒の英会話能力を向上させる	大学と連携した高校生向け英語ワークショップ開催の検討					
		多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける	大学で行われる高校生が参加可能なワークショップの情報周知徹底					
		(4)	被造物に対する配慮	地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する	教科横断型のカリキュラム構築に向けた検討実施			
				地球環境保全のために実践できることを行う	図書館との連携による地球環境保全に係る日常生活に関する意識の醸成			
		(5)	正義の促進	“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける	弱い立場に置かれている人々と出会い関係性を構築する機会となる教育プログラム(体験活動)の実施			
				“Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける	難民支援施設などとの協力関係構築に向けた協議の促進			
				“Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける	倫理科のカリキュラムを中心とした“Others”の問題について考える場の設定継続			
		(6)	全ての人々がアクセス出来る	学校納付金の適正なあり方を検討する	栄光イエズス会奨学金の継続的支給			
				奨学金を充実させる	寄付金制度(未来Eiko募金)の集金力向上にむけた具体策の継続的検討			
				近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える				
		(7)	文化相互性	自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける	高校3年生を対象とした歌舞伎教室の実施			
					高校2年生を対象とした沖縄の平和学習と地域交流をベースにした学年旅行の実施			
		(8)	Globalネットワークに結ばれる	イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参与する	フィリピンのイエズス会学校Sacred Heart School, Areneo de Cebuとの生徒相互派遣プログラム実施			
				イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる	米国のイエズス会大学Boston CollegeのEver to Excelへの生徒・教員派遣実施			
					海外のイエズス会高校に留学できる制度の検討			

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2025年度
4校共通課題			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる	倫理科の現状カリキュラムにおける「4つのC」の位置付けの確認と教職員間での周知に向けた準備
			(10)	生涯学び続ける	卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる  同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける  日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする	カトリック信徒同窓会活動と組織化への協力  卒業生のための黙想会の企画の検討  校内でのEducate Magisサイトの情報共有促進
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する  カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける  イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う	イエズス会教育もしくはカトリック教育に関するテーマによる教員研修会の実施  毎月一回校長が主催する新任教員研修会の継続的实施  JSECの研修会実施への協力
3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が「Ignatian Leadership」を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける  アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける	大学で行われる高校生が参加可能なワークショップの情報周知徹底	
学校別課題	4.	教育目標や教育内容、及び学校施設などの本校の特色をよりよく理解してもらったうえで選ばれるようにする				学校説明会を3回開催  校外での広報機会の積極的活用  説明会参加者アンケートに基づいた広報改善方策の検討  広報委員会とHP委員会を中心とした検討の継続
	5.	学校施設の修繕計画に基づき教育環境の整備を行う				諸老朽施設の改修推進  諸施設のLED化の促進
	6.	時代の変化に対応する必要がある部分に関しては、校内諸規程の見直し検討を行う				改定した新しい教務内規(成績評定・進級規程等)の運用開始

六甲学院

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2025年度
4校共通課題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参与する雰囲気を学校内につくる  キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する		共同識別による・意思決定について、教職員間の共通理解を深める講話や浸透のための研修機会の設定  生徒・教職員がキリスト教的・イエズス会的な価値観に接し、理解を促進する機会の設定  4校教員がインド訪問をする倫理宗教研修会実施を通じた、イエズス会教育への理解の推進・深化
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	ハラスメントのない学校環境をつくる  教職員の働き方を検討する  Cura Personalisを徹底する		「ひとり一人を大切に教育」の実践に向けた、学校生活や行事における人権面での具体的配慮の検討・実践  「合理的配慮」への理解・推進  生徒への「ハラスメント」「体罰」等の禁止を徹底するための研修会の継続実施  働き方改革を推進し教職員が健全に働ける職場環境を整えるための具体的施策の検討・実施  阪神淡路大震災から今年で30年を迎えることをふまえた、命の大切さと防災について生徒に考えさせ意識づけるための講話・校外学習・研修旅行等の機会の設定  東北研修旅行や社会奉仕活動を通じた、東日本大震災・能登半島震災の事実・教訓から学ぶ防災教育の実践
			(3)	Global市民の育成	生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する  生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける  生徒の英会話能力を向上させる  多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける		世界的課題に取り組む学習機会の設定  シンガポール・マレーシアへの高2研修旅行、ニューヨーク研修・インド訪問・カンボジア研修等の海外研修の実施  読む・書くだけでなく話す・聞くことを含めた英語の4技能をバランスよく養う英語教育の実践
			(4)	被造物に対する配慮	地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する  地球環境保全のために実践できることを行う		世界的課題に取り組む学習機会の設定  シンガポール・マレーシアへの高2研修旅行、ニューヨーク研修・インド訪問・カンボジア研修等の海外研修の実施 地球環境への配慮・行動変容を促す教育機会の設定

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2025年度
4 校 共 通 課 題			(5)	正義の促進	<p>“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける</p> <p>“Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける</p> <p>“Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける</p>	<p>世界の経済格差や貧困・不正義・不公正な社会の現場に実際に接して、考える機会の設定</p> <p>施設での奉仕活動や街頭募金、被災地支援のボランティア等、社会奉仕活動の継続・充実</p> <p>フィールドワークから、課題解決に向けた探究学習としての卒業論文までの教育サイクルの確立</p> <p>卒業論文作成過程や高校生の研究における、卒業生や上智大学からの学習支援の検討・実践</p> <p>高校での探究学習・研究をより深めるための卒業生等の協力可能性の模索・創設</p> <p>世界的な課題である経済格差や差別・貧困問題に直面する機会としてニューヨーク研修・カンボジア研修・インド訪問を準備・実施</p> <p>文化祭・報告記等でインドの支援施設の現状共有を通じた、インド募金の意義の確認・浸透</p> <p>卒業生からFor Others, With Othersの生き方を role model として学ぶ様々な機会の提供</p> <p>講演会・研修旅行・職場訪問等の企画や教師の朝礼講話を通じたFor Others, With Others を生徒に根付かせる取り組みの実践</p>	
			(6)	全ての人々がアクセス出来る	<p>学校納付金の適正なあり方を検討する</p> <p>奨学金を充実させる</p> <p>近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える</p>	<p>奨学金の充実</p> <p>イエズス会教育の教育活動に関する寄付金制度(六甲未来つばさ募金)のパンフレット作成・送付および実施</p> <p>近隣住民との良好な関係の構築と保持</p>	
			(7)	文化相互性	<p>自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける</p>	<p>授業・行事における日本の歴史・文化を学ぶ機会の設定</p> <p>メディアリテラシー教育とICT教育を通じた、健全に世界とつながる教育活動の構築</p> <p>国際交流の場における自国の文化を紹介する機会の設定とともに、海外の同世代の生徒から他国の文化を知り、世界の民族や文化の多様性について理解する機会の設定</p>	
			(8)	Globalネットワークに結ばれる	<p>イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する</p> <p>イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる</p>	<p>卒業生や上智学院からの支援や寄付金を生かした、海外研修への経済的支援具体策の検討・実施</p> <p>本校・4校合同で高校生のイエズス会学校への留学制度を設けるための検討の場の構築</p> <p>国際ISLFの実現・参加に向けた4校間の協力体制の構築</p> <p>海外姉妹校からの生徒訪問の受け入れと、短期留学生の積極的受け入れに向けた前向きな検討</p> <p>イエズス会教育実践を強化するための意識醸成機会創出の検討(ニューヨーク研修、インド訪問、カンボジア研修で姉妹校訪問・交流企画の実施、オンライン交流機会の活用等)</p> <p>カトリック学校共同の研修会への参加促進</p> <p>各研修会の趣旨に即した教員世代別・役割別の研修機会の検討・実践</p> <p>生徒の近隣カトリック学校との合同研修会・交流会企画への参加促進</p>	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2025年度
4 校 共 通 課 題			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる 6年間の教育プログラムをつくる		「他者に仕えるリーダーシップ」の養成に向けた、行事・学習活動を見直しや整理・体系化を検討する役割と場の設定  イエズス会教育の日常実践に向けた、「六甲手帳」活用を根付かせる取り組みの推進
			(10)	生涯学び続ける	卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる  同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける  日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする		進路の日・OB講演会・職場訪問等の行事への卒業生の協力と、生徒の将来に向けて進路を考える機会の設定  4校の卒業生組織が日本・世界のイエズス会学校・イエズス会卒業生との関係を構築することへの協力
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する  カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける  イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う		すべての教職員がイエズス会教育の担い手であることを自覚するための講話や研修機会の設定  勤務を継続しつつオンラインによるイエズス会教育研修機会の可能性の模索  イエズス会教育継承者の担い手養成を四校会と上智学院合同で検討する場の設定  イエズス会教育推進委員(JSEC)の関与による、イエズス会教育・カトリック教育の観点が含まれた教職員研修会の企画・実施
	3.	上智大学との繋がりを維持続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が「Ignatian Leadership」を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける  アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける		4校合同での東ティモールの継続支援・関係強化・現状把握のための情報収集と4校教員の現地視察の実施検討  将来的に安全が確保できる形での生徒派遣に向けて、すでにつながりのある上智大学や六甲・上智出身の研究者との協議の場の設定  上智大学の教員による学習機会の検討(倫理・宗教・人間学等をテーマにした専門的な講義および社会正義・環境課題・識別・UAPsと関わる講義等の実施)  上智大学主催のワークショップ・講座・公開企画に生徒が姉妹校生徒と共に参加する機会の定着
	4.	教育目標や教育内容、及び学校施設などの本校の特色をよりよく理解してもらったうえで、選ばれる学校であり続ける					主体的な学習者を養成するための方策(探究型学習等)の具体的検討と実践  研修旅行・進路の日・OB講演・職場見学・海山キャンプ・フィールドワーク・中3卒業論文等の課外学習や探究型学習を、日常の学習と有機的につなげ、将来の進路に向けての生徒の主体的・内発的な学びにつながるよう検討・工夫  上級生が下級生を指導する伝統や、独自の国際交流・探究型学習・イエズス会教育プログラムの受験生・保護者への効果的な広報の検討  文化祭・学校説明会・オープンスクール等で受験生を生徒が直接世話をし、六甲生と出会う機会の充実
	学校別課題						

中長期計画					アクションプラン(AP)	事業計画
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2025年度
学校別課題						<p>楽しく生き生きと過ごす六甲生の日常の姿の継続的な広報発信とその充実</p> <p>6年間の一貫教育の中で育てたい人間像を明確に伝達するための検討の場の設定</p> <p>人間的成長に向けて有機的に系統立てた教育プログラムとして、行事・社会奉仕・訓育・海外研修・進路教育等の図式化の検討</p> <p>六甲学院の魅力・選ばれる学校に向けて、上智大学との高大連携プログラムを協議・検討する場の設定</p> <p>多方面で変革しつつある社会への対応を模索する日本の教育の潮流を読み取り、選ばれ続ける魅力ある学校へと変革するための検討の場の設定</p> <p>学力面・訓育面の規律ある指導を維持しつつ、不登校生・転学生を極力出さない、明るく楽しく意欲的に学校生活を送ることができる校風・学校文化の醸成</p>
	5.	時代の変化に対応する必要がある部分に関しては校内諸規定等の見直し検討を行う				<p>一人ひとりの個性を尊重し自己肯定感を育みつつ、他者とのかかわりの中でFor Others, With Othersを目指す教育の実践・深化</p> <p>六甲学院の教育を築いてきた熟練した教職員がその経験と知識を生かし続けられるよう定年延長に向けて準備・実施</p> <p>能力の高い若手・中堅の教師がその才能を伸ばし意欲をもって働き続けられる職場環境の整備</p>
	6.	学校施設の修繕計画に基づき教育環境の整備を行う				<p>100周年に向けた、六甲学院として教職員がグランド・レイアウトを意識し、基本的な方向性を共同識別するための研修機会の設定</p>

広島学院

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2025年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参与する雰囲気を学校内につくる  キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する		各会議を通じた意思疎通の強化  イグナチオ的教授法に基づいたイエズス会教育、特に「内省」の実践
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	ハラスメントのない学校環境をつくる  教職員の働き方を検討する  Cura Personalisを徹底する		職員研修におけるハラスメントに関する研修の実施  体罰、いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施  カウンセリングドクター・学校カウンセラー、学習支援室(room-w)、保健室等との連携によるカウンセリングの推進
			(3)	Global市民の育成	生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する  生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける  生徒の英会話能力を向上させる  多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける		フィリピン(8月)・カンボジア(12月)・アメリカ(3月)の国際交流プログラムの実施  英語の授業における文化の違いに関する意識醸成  スプリット授業の充実  中3ILにおける世界の貧困や差別、紛争と難民などの問題について学ぶ機会の設定
			(4)	被造物に対する配慮	地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する  地球環境保全のために実践できることを行う		IL、教科の内容から地球環境や環境保全の問題に係る考察の実践  美化委員会活動の充実
			(5)	正義の促進	“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける  “Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける  “Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける		中1ILにおけるイエズス会のミッションに関する学びの実施  中2ILにおける障がい者の立場や支援方法についての体験的な学びの実施  中3ILにおける世界の貧困や紛争などで困っている人々についての学びの実施  中学3年生の街頭募金への参画  高校生によるフィリピン・カンボジアとの国際交流の実施  被災地や釜ヶ崎、児童養護施設などにおけるボランティア活動への参加と奉仕精神の実践  生徒活動と連携した地域ボランティア活動の推進
			(6)	全ての人がアクセス出来る	学校納付金の適正なあり方を検討する  奨学金を充実させる  近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える		経済的困窮度の高い生徒に向けた奨学金の充実  シュワイツェル奨学金の周知と活用  広報部におけるSNSを活用した学校情報の発信

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP		2025年度
4 校 共 通 課 題			(7)	文化相互性	自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける		歴史・古典の授業における自国文化に関する理解の深化 行事の準備授業における自国および国際理解の深化
			(8)	Globalネットワークに結ばれる	イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する  イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる		フィリピン(8月)・カンボジア(12月)・アメリカ(3月)の国際交流プログラムの実施  国際交流を行う学校との相互留学の際の発表や交流会を通じた交流実施
			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる 6年間の教育プログラムをつくる		ILプログラムの充実
			(10)	生涯学び続ける	卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる  同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける  日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする		文化祭ホームカミングデーの活用  翠友会(同窓会組織)との連携
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する  カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける  イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に開催する		JSEC委員による活動やJSEC研修の活用  カトリックイエズス会センターとの情報交換、連携  若手教員フロンティア研修(ボランティア・社会正義活動の視察)の活用  司祭、イエズス会員による研修への参加  国際交流、イエズス会教育部と連携した引率教員の研修  各種テーマ別教員研修への参加
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける  アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける		必要に応じた上智大学教員・学生団体との連携  IL、教科、いのちの教育等、カリキュラム内容に応じた協力依頼  行事等を通じた留学生との交流による、互いの理解を基本とした学びの場の創出

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画
区分	No.	大項目	No.	中項目	4校共通AP	2025年度
学校別課題	4.	生徒の進路志望を実現させる学校になる(生徒の学力向上に常に努める/men for others の理解に導く)				カリキュラム表の提出による授業内容の精査と検討  各教科における生徒間の学力格差に応じた教科指導のあり方の検討  ICT教育に関する情報の発信
	5.	生き生きと過ごせる学校になる(様々な挑戦の機会を作る)				生徒指導部を中心とした部活動に関する情報収集  各部署からの情報発信
	6.	1人1人が「ここを居てもいい」という実感の持てる学校になる(生徒1人1人の持つ特性や環境に可能な限り配慮する)				教育相談係と学年の情報交換および連携の実践  生徒面談、観察に基づいた関係教職員間の情報交換
	7.	ICTを有効に活用する(ICT委員を中心に、課題を検討し、有効活用を推進する)				ILや探求学習の際の活用、プレゼンの活性化  AI活用の可能性についての研究
	8.	施設設備の経年劣化への対応を推進する				建築委員会を中心とした新校舎建設の推進

上智福岡

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	共通AP(G-AP)		2025年度
4 校 共 通 課 題	1.	イエズス会学校の10の識別子に沿って、学校運営を行う	(1)	カトリックであること	意思決定を行うプロセス(共同識別)に健全に参与する雰囲気を学校内につくる  キリスト教的価値観、普遍的価値を知り、コミットすることができる倫理・宗教教育を実践する	意見の吸い上げ・応答プロセス(意思決定プロセス)に関する各種取組の継続実施  弱い立場に置かれた人々や様々な社会課題と出会い、共感や使命感からより良い社会作りへの行動にむかわせる新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善	
			(2)	安全で健康的な環境をつくる	ハラスメントのない学校環境をつくる  教職員の働き方を検討する  Cura Personalisを徹底する	意見の吸い上げ・応答プロセス(意思決定プロセス)に関する各種取組の継続  法人の協力によるハラスメント研修の実施  ハラスメントの相談窓口に関する情報掲載・周知の徹底  ワーキングチームとの協働による教職員の働き方最適化  管理職による年2回の教職員へのヒアリングの継続と運営協議会内での情報共有	
			(3)	Global市民の育成	生徒がGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができるカリキュラムを構築する  生徒が世界のGlobal化を体験する機会を設ける  生徒の英会話能力を向上させる  多くの社会問題がGlobalなものであることを理解し、解決する策を考える機会を設ける	現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善  海外への語学研修およびカンボジアスタディーツアーの実施  ミクロネシアスタディーツアー開始に向けた準備  海外姉妹校相互交流部署の拡充と交流活動の実施  中3語学研修、英語暗唱・スピーチ大会、英語科研究授業などの継続的実践	
			(4)	被造物に対する配慮	地球環境の問題を深く学ぶカリキュラムを構築する  地球環境保全のために実践できることを行う	現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善  SDGs推進担当者主導での生徒会・生徒・教職員による取り組みの検討と実施	
			(5)	正義の促進	“For Others, With Others”の真の意味を学ぶ機会を設ける  “Others”とされる人々と直接触れ合う機会を設ける  “Others”と呼ばれる人々がなぜ生まれるのかを深く学び、“Others”の問題を解決するためにどんな方策があるかを考える場を設ける	弱い立場に置かれた人々や様々な社会課題と出会い、共感や使命感からより良い社会作りへの行動にむかわせる新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善  現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善  宗教部における実施可能なボランティア体験機会の実施	
			(6)	全ての人々がアクセス出来る	学校納付金の適正なあり方を検討する  奨学金を充実させる  近隣の人々に開かれた学校とするための方策を考える	経済的理由で就学が困難な生徒への現存の奨学金制度の継続的適用  Instagramによる情報発信の継続	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	共通AP(C-AP)	2025年度	
4 校 共 通 課 題			(7)	文化相互性	自国の文化を深く学び、世界の多様な文化を知る機会を設ける	海外への語学研修およびカンボジアスタディーツアーの実施	
			(8)	Globalネットワークに結ばれる	イエズス会学校の“Educate Magis”を積極的に活用し、また、その活動に参加する  イエズス会学校関係以外にも、適切な教育機関などとのNetworkに積極的に繋がる	担当者によるEducate Magisでの活動紹介の増加と教職員の参加促進	
			(9)	人間としての卓越性を追求する	「4つのC」を身につけることができる6年間の教育プログラムをつくる	弱い立場に置かれた人々や様々な社会課題と出会い、共感や使命感からより良い社会作りへの行動に向かわせる新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善	現実世界とかかわりGlobalizationの意味や問題点を学ぶことができる新シラバスでの授業実施と新シラバスの改善
			(10)	生涯学び続ける	卒業後も学校と関わりを持ち続けることができる組織をつくる  同窓会、同期会などを通して、学校で学んだことを振り返り、分かち合う機会を設ける  日本のみならず世界のイエズス会同窓会組織と結びつきを持ち、イエズス会教育に関する情報を共有できるようにする	生涯学び続ける場の創出に向けた同窓会との協議の場の設定	
	2.	イエズス会教育を継承する、担い手を養成する	(1)	イエズス会教育を継承する担い手を養成するための機会提供、資料収集、研修会などを企画・実践する	イエズス会教育について、少なくとも一人の教職員に専門的に学ぶ機会を提供する  カトリック・イエズス会センターと協力して、イエズス会教育を学ぶ資料を豊かにし、随時研修できる機会を設ける  イエズス会中等教育推進委員会(JSEC)が中心となって、研修会を継続的に行う	イエズス会教育について専門的に学ぶ機会への教員派遣に関する具体的検討の実施  国内外で実施されるイエズス会教員・生徒関連の研修企画への教員の派遣  教職員研修会におけるイエズス会・カトリック教育に関するセッションの実施  イエズス会教育に関する新任研修の継続	
	3.	上智大学との繋がりを持ち続ける	(1)	イエズス会学校で学ぶ生徒が“Ignatian Leadership”を身につけることができる機会を、上智大学が持つresourcesを積極的に活用できるようにする	さまざまな学部と連携して、生徒が在学中に専門的な知識を学ぶことができる機会を設ける  アジア人材養成研究センターなどの大学内の研究機関と連携して、世界のさまざまな課題を学び、体験できる機会を設ける	Sophia GED企画担当者による各活動への生徒の参加促進  上智大学出張授業の実施体制の刷新(大学との協議再開検討)  中3理科課題解決学習を中心とするSFO(Studies for Others)に関し、上智大学と連携したカリキュラム刷新に向けた協議の再開検討	

中長期計画				アクションプラン(AP)		事業計画	
区分	No.	大項目	No.	中項目	共通AP(C-AP)		2025年度
学校別課題	4.	高3の25%が現役で国公立大に合格する学校になる	(1)	シラバス・授業の質を向上させる			教頭主導による授業研究日を含め各教科年2回研究授業の実施  授業研究日の設定(指導助言者の招聘と全教員の参観および検討会の実施)  各教科における指導助言者の招聘の奨励
			(2)	理科力の強化を通して理系合格者を増やす			非常勤実験助手採用の検討
	5.	充実した教育環境整備にむけ特別棟1階を改築する					校地整理と寄附金募集の実施  特別棟1階のレイアウト変更の検討と実施
	6.	予算規模に適正な範囲で最大限の専任教員を計画的に採用する(学年所属教員8名を目指す)					専任教員適正人数を検討したうえでの専任教員採用  長期的採用計画に基づく教員採用の実施
	7.	創立100周年(2032年)に向けた準備を進める(記念行事の概要を固め、準備を進める)					

法人部門

GL3.0(部門計画・アクションプラン)	2025年度事業計画
<b>1. 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する</b>	
<b>(1)カトリック・イエズス会教育の継承、浸透</b>	
①イエズス会学校およびイエズス会教育の担い手を養成する研修制度・プログラムを検討し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上智学院教職員を対象とした本学独自のプログラムの検討および実施</li> <li>・JSECとの連携による研修プログラムの検討</li> <li>・ISLF国内版および海外版の企画立案</li> <li>・カトリック学校出身者の集いの実施(5月)</li> <li>・カトリック学校連合会と協働したカトリック中等教育機関へのカトリック教育に係る支援の検討</li> </ul>
②カトリック・イエズス会センターの体制を強化し、活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カトリック・イエズス会センターの活性化および既存組織の検証、新規体制の構築</li> <li>・イエズス会およびカトリック教育を前提とした教職員対象企画の立案と実施</li> <li>・教職員および学生を対象とした「黙想会」「霊操体験研修」等の開催</li> </ul>
③イエズス会および各学校間の連携を強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イエズス会日本管区および関連組織との協働企画立案・実施</li> <li>・教皇フランシスコ来学記念基金を活用した社会貢献活動の実施と実施支援</li> <li>・「ラウダート・シ」ゴールズをめざした活動の実施</li> </ul>
<b>(2)上智学院および設置校の歴史の理解、継承、浸透</b>	
①大学および中高4校のアーカイブ史料の継続的な収集・整理とデジタル化を推進し活用すると共に、収集・整理・活用を担う教職員(アーキビスト)を養成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の継続的収集と整理(文書等管理規程別表整理案を参考にし、社会福祉専門学校移管文書の移管を中心に)</li> <li>・情報共有・社会貢献を目的とした史料資料目録の公開準備</li> </ul>
②アーカイブ史料を活用した自校史の編纂および公表と共に、それらを活用した自校史教育・研修プログラムを検討し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公開するアーカイブズおよび史料紹介動画の作成</li> <li>・自校史の教育の立案と推進</li> <li>・学院ゆかりの方々へのヒアリング実施</li> </ul>
③アーカイブ史料を活用し、ステークホルダーや地域・社会へ積極的に発信すると共に、コミュニケーション機会を拡大する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスの建物・地域と連携した散策マップの作成</li> <li>・地域とのコラボ展示等の企画準備</li> <li>・小さな歴史モニュメントの作製</li> </ul>
<b>(3)経営判断の精緻化(IR活用型マネジメントの徹底および柔軟かつ迅速な意思決定の実現)</b>	
①中長期計画の推進体制およびプロセスの確立、特に適切な進捗管理を実施し、環境変化に応じた柔軟な計画見直しプロセスを導入する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員参加型による各部門単位での施策実行と情報共有の徹底</li> <li>・中長期計画進捗状況のモニタリング実施と進捗確認体制の確立</li> <li>・中長期計画システムの導入による進捗管理の効率化</li> </ul>
②IR志向教職員を育成すると共に、意思決定プロセスにおいてIRを活用したEBDM※の実践により、IR活用型マネジメントを実現する ※EBDM(evidence-based decision making)：根拠に基づく意思決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部長会議・企画委員会等の学内会議体におけるIR分析・集計事例報告の実施(年間15件)</li> <li>・全学的な報告会(教学の進捗・方針に係る説明会含む)の実施(年間5件)</li> <li>・IR人材育成PGの実施(参加者数15名)と分析結果報告の実施(15件)</li> <li>・分析結果共有用のTableau Cloud環境の整備を通じた、大学執行部に報告できる環境の構築</li> </ul>
③社会変化に対応した新たな教育体制・支援体制を検討する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的弱者を支援する教育プログラム実施に向けた具体的検討企画の策定</li> <li>・秦野キャンパスの将来的な利活用案の検討と秦野市との定期的な打合せの実施</li> </ul>
<b>(4)ガバナンスの強化と、コンプライアンスおよびリスクマネジメントの徹底</b>	
①権限・役割の明確化や意思決定プロセスの見える化の促進など、内部統制が有効に機能した学校法人運営体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改正私立学校法に伴う「私立大学ガバナンス・コード 2.1版」開始への対応</li> <li>・内部統制システムの運用体制の構築</li> <li>・改正私立学校法に対応した新寄附行為に基づく理事会・評議員会の着実な運営</li> <li>・理事会の実効性向上の取組み実施</li> </ul>
②法人運営・学校運営を担うマネジメント人材を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事、評議員、監事向けの研修機会の提供</li> <li>・新寄附行為に基づく理事、評議員、監事の選任</li> </ul>
③コンプライアンスを徹底し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の重点テーマの設定と研修内容の企画立案・実施</li> <li>・コンプライアンス関連研修の企画立案・実施</li> </ul>
④組織的かつ計画的なリスクマネジメント(リスクの未然(再発)防止、BCPを含む危機対策の事前準備)を推進し、精度向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データセンター・クラウド利用による学院のシステム・ネットワーク耐障害性向上の仕組み導入・構築</li> <li>・統合データベースの管理者・利用者分離に伴うセキュリティリスク対応の実施</li> <li>・情報セキュリティ訓練・教育の教職員への実施による意識向上</li> <li>・中等教育4校の執行部・役職者を対象とした危機管理広報トレーニングの実施</li> <li>・リスクマネジメントのPDCAサイクル(重要リスクの選定、対策の実施、実施状況の評価、改善)の実施</li> </ul>
<b>(5)ステークホルダーとの連携強化(繋がりを強める継続的かつ効果的なコミュニケーションの実現)</b>	
①自治体・企業・各種団体との新たな連携した事業を検討し、地域貢献・社会貢献を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都・千代田区等の近隣自治体(行政)からの期待やニーズに関する情報収集と実態把握・連携事業の実施</li> <li>・既存の地域課題に対する学生による社会貢献活動(改善提案・ボランティア活動など)の発展と新規交流・協力事業の検討</li> <li>・企業と連携して開催する社会課題解決をテーマにしたイベントの開催</li> </ul>
②情報公表方法・媒体などを再検討し、戦略的なパブリックリレーションズを展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上智大学通信」リニューアル実施</li> <li>・デジタルサイネージ・グローバルインターフェースのリプレイス計画の検討</li> <li>・学部・研究科サイトリニューアル完了(3年目)</li> <li>・学生職員によるダイバーシティ・サステナビリティに関する広報専門チーム発足による、情報発信における頻度と質の向上</li> </ul>
③学院内の情報収集・管理、情報公表に関する体制を整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上智学院広報」の発行形態・内容の見直し</li> <li>・文書等管理規程等の関連規程の見直し</li> </ul>
④卒業生・同窓生との対話を促進し、連携した事業・教育プログラムを展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母校への帰属・支援意識を促進する対話型イベントの実施</li> <li>・卒業生活躍情報のタイムリーな獲得体制の確立および該当卒業生との接点作りの強化</li> <li>・ASF実行委員会への参画による、卒業生・同窓生に向けた意識醸成と理解の促進</li> </ul>

<b>2. 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する</b>	
<b>(1) 全ての人々に寄り添い、ひとりひとりを大切に作る組織・風土の実現</b>	
①ユニバーサルデザインを実現するために新たな施策を実現する	・キャンパスサイン計画の推進
②DEI&Bを更に推進する	・DEI&Bに関わる宣言の作成と発信 ・D&Iアワードへの応募、およびそれに向けた体制整備 ・DEI&Bに関わる情報の集約によるガイドラインの整備
③教職員・学生・生徒に対する意識改革に資する企画・プログラムを実施する	・D&Iに関わる階層別研修の実施 ・D&Iまたはサステナビリティに関わるイベントの実施 ・サステナブルな学内フードサービスの検討
<b>(2) インクルーシブかつサステナブルな学校・職場環境(施設・設備等)の整備(ラウダート・シを意識する)</b>	
①カーボンニュートラル対応など、GX・SX・地球環境問題解決に貢献する学校環境を実現する	・廃棄物の削減とリサイクルの推進 ・CO2削減のための高効率器具への更新推進 ・再エネ100%持続に向けた取り組みの継続および積極的な情報発信
②すべての人々にとって安心・安全・快適な施設・設備を整備し、運用する	・7号館改修に伴う空調設備の更新やバリアフリー化の実施 ・真田濠グラウンド整備の計画遂行
③建物老朽化に伴う更新計画を立案し、実施する	・7号館改修工事の実施 ・秦野キャンパスの災害復旧対応
④各学校におけるDXを促進する	・職員端末を含めた事務系基盤システム更新実施(これまでに抛らない新しい形の仕組みの実現) ・事務系ネットワーク機器老朽に伴う更新および物理配線・機器の他ネットワークとの統合 ・中高大学関係者が情報共有を図る仕組みの導入支援 ・中高におけるICT事業の現状とニーズの把握 ・会計伝票の電子化と「ファカルティサポートデスク」設置・運営による事務負担軽減
<b>3. 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する</b>	
<b>(1) 奨学金等基金、キャンパス整備、戦略的な教育研究事業に対する財源の確保</b>	
①学生支援および研究促進のための基金を拡充する	・関係部署への中長期予算計画の依頼と、収集した計画内容に基づく必要額および時期の把握 ・中長期予算計画をふまえた計画的な組入
②安心・安全・快適なキャンパス整備のための減価償却引当特定資産を積み増す	・関係部署への中長期予算計画の依頼と、収集した計画内容に基づく必要額および時期の把握 ・中長期予算計画をふまえた計画的な組入
<b>(2) 財政基盤強化を可能とする経常収支差額の確保(収支バランスの最適化)</b>	
①安定的な収入を確保するとともに、最適収支バランスを目指した予算策定を行う	・実質購買力維持のための適切な学費改定と費目統合の継続的検討 ・GL3.0推進に必要な予算を確保するため経常予算の削減実施
②積極的な募金活動を実施する	・事業計画にリンクした使途メニューの開発 ・資金調達を要する事業にかかる情報収集・実態把握・寄付募集の検討 ・戦略的寄付獲得策の実施
③学生生徒等納付金以外の収入を確保する	・基本ポートフォリオに基づくリスク管理と中長期目標リターン確保 ・投資リターンと社会的リターンの両立 ・責任投資に関する情報開示の充実
④経費削減を恒常的に取り組む	・カーボンニュートラルへの対応に伴うコスト増抑制策の検討継続
<b>4. 組織力を高める人事政策を実行する</b>	
<b>(1) 各設置校における教育・研究力をさらに高める新しい組織・制度の整備</b>	
①多様な人材を確保し、教学組織の中長期計画実現を支援する	・教学組織の中長期計画を実現する人件費の有効活用に向けた財務局との連携強化 ・D&Iを実現する教職員のモニタリングと受入体制の整備
②上智学院の目指す教育、研究、学校運営、社会貢献を推進するための職員のパフォーマンス向上を実現する施策を展開し、経営支援機能を強化する	・学院経営における重点領域への職員配置を実現する戦略的採用施策の展開 ・人材育成に資する諸制度の見直しと有機的活用
③教職員の帰属意識を高める	・健康(安全・衛生・心身の健康)経営を意識した施策の立案と実行 ・関係部署との連携による、建学の理念、教育精神およびイエズス会教育を学ぶ機会の提供 ・上智学院版社内報サイトの制作・運用
<b>(2) 将来的な財務状況を踏まえた人事計画の策定と実行</b>	
①上智学院の持続可能な発展に資する人事施策を実行する	・社会の動向を踏まえた総額人件費構造のあるべき姿の検討
②学院および大学等の発展に資する人事計画の実行を支援する	・教学部門の人件費管理方針の策定および執行状況の評価
③労働行政の動向を踏まえた人事施策を実行する	・労働時間管理の適正化を目指した就業規則等の見直し ・持続可能な業務遂行を見据えた多様な人材の採用、育成、配置等
<b>(3) 中等教育部門と高等教育部門との連携を深める</b>	
①人事・労務管理にかかわる課題へ対応する	・中等教育部門における諸課題の整理と解決策の実施
②中等教育事務室の機能を強化する	・法人と連携したリスク管理体制の整備

## 2025年度予算編成の基本方針

### 【はじめに】

従来、翌年度の予算については2月の理事会で審議・決定し3月上旬に示達を行っていましたが、予算とグラウンド・レイアウト3.0に基づく事業計画は密接に関連するため同時に審議すべきであることから、今年度より翌年度の事業計画とあわせて3月の理事会で審議・決定することにいたしました。ついては、各部署においても、来年度の事業計画と予算との連動を重視して予算を申請するようお願いいたします。

### 【基本方針】

「上智学院グラウンド・レイアウト3.0」における重要課題を推進するためには、限られた財源のなかで最適な予算配分を行う必要があります。

重要課題に基づく新たな教育研究の展開や、キャンパス整備計画（中等教育部門を含む）に基づく教育研究環境の整備改善を確実に進めるためには、新規プログラムに対する適否の判断だけでなく、既存事業とその予算を今一度見直し、既得権・前例・慣習等にとらわれることなく、必要最低限の予算を編成するとともに、適正かつ公正に執行しなければなりません。

また、学校法人の収支は均衡していることが求められており、本学院においても当年度収支差額の均衡に努め、財政の健全化を図ることが重要な課題です。

以上を踏まえ、来年度の予算編成に当たっては、以下の点を基本方針といたします。

#### 1. 事業計画に則った予算立案と適正執行

学校法人上智学院の重要課題と財政状況を踏まえ、適切な事業計画を策定し、これに則った適正な予算を立案し、財源が学納金や国庫補助金であることを認識し、適正かつ公正な予算の執行に努める必要があります。

#### 2. 重要課題への予算の重点化

「上智学院グラウンド・レイアウト3.0」に示される重要課題に係る教育研究活動及び基盤整備等の諸施策に対して重点的に予算を配分します。

#### 3. 収支改善による収支均衡の実現

業務の見直しによる効率化を更に徹底し、収支の均衡に一層努めます。

また、各事業の収支を的確に把握し、不採算事業の不断の見直しを図るとともに、収入増加策及び支出削減策を推進することとします。

#### 4. 経費削減と最小予算による最大効果の発揮

教育・研究活動に係る経費は、新たな取り組みを積極的に推進するため、既存事業の経費削減を「聖域」なく検討・実施することとします。

また、限られた予算の効果的な使用と恒常的経費の削減にさらに努め、より少ない予算でより大きな効果を得られるよう創意工夫することとします。

#### 5. 人件費支出の適正化

業務の合理化・効率化・外部委託化等により、人件費支出の適正化を図ります。

#### 6. 学費収入の確保

文部科学省の入学定員管理の厳格化や18歳人口の減少が進む中、財政的根幹を成す学費収入を如何にして安定的に確保するのか、これを重要課題として取り組むこととします。

#### 7. 外部資金の積極的な獲得

外部資金の獲得を積極的に進めるとともに、新たな取り組みを含めた諸活動の財源については、自ら確保することを原則とします。

## 8. 学内研究費制度の実績評価と最適化

研究活動にかかるP D C Aサイクルの一環として行われる研究評価委員会による評価結果等を踏まえ、創出された研究成果の発信状況や研究費制度の活用状況等に鑑みた制度の見直し及び運用改善を図ります。研究拠点の形成・確立とともに、研究成果発信の促進及び若手研究者の育成支援を重要課題として認識し、研究費制度の最適化をさらに進めていきます。

## 9. 部門別及び目的別収支管理による選択と集中の推進

安定的な財政基盤を構築し、「上智学院グランド・レイアウト3.0」に示される重要課題を円滑に推進するためには、部門別及び目的別の収支状況を適切に把握し、評価・見直しを常に行うことにより、選択と集中を進めることが不可欠であり、今後とも部門別・目的別に予算申請を行うこととします。

### 【具体的措置】

#### 1 高等教育部門

##### (1) 経常予算

原則として2024年度予算示達額と同額(基金果実を除く)を上限とします。

ただし以下の点にご留意ください。

<留意点>

- 申請上限額は、予算を保証するものではありません。基本方針に基づく予算案策定の結果、予算額が前年度予算を下回る場合もありますので、予めご了承ください。
- 過年度に実施した特別予算を経常予算に移行させる場合は、既存の経常予算において当該移行分の削減を原則とします。

##### (2) 特別予算

Iに記載の重要課題に関わる新規事業を推進するため、特別予算の総枠は設けず経常予算を含めた収支バランスを鑑み予算を編成します。

対象となる事項は経常予算では賄いきれない新規事業とし、SGU 始め国の補助事業が終了した事業で、引き続き行う必要があるとされた事業については、この経費に含むものとします。

留意点は以下のとおりです。

<留意点>

- 立案した企画・計画が関連する会議体の承認を必要とする事項は、所要の続きを経て予算申請を行うことを前提とします。
- キャンパス整備計画及び情報システム室による基盤整備事業（LAN 施設工事やPC の入れ替え等）に係る予算は重点化予算として別枠とします。

#### 2 中等教育部門

中等教育部門については、従来予算に特別予算枠を設けていないことから、新たな事業は既存の予算の枠内で実施することを原則とします。

## 2025年度資金収支予算（学院）

（単位：千円）

収入の部	
科 目	2025年度予算
学生生徒等納付金収入	20,571,734
手数料収入	1,035,718
寄付金収入	896,534
補助金収入	4,195,821
資産売却収入	4,550,000
付随事業・収益事業収入	1,218,324
受取利息・配当金収入	758,233
雑収入	1,009,839
借入金等収入	1,140,000
前受金収入	4,543,771
その他の収入	6,808,539
資金収入調整勘定	△ 4,972,353
前年度繰越支払資金	9,831,368
<b>収入の部合計</b>	<b>51,587,529</b>

支出の部	
科 目	2025年度予算
人件費支出	16,080,093
教育研究経費支出	8,643,987
管理経費支出	1,874,634
借入金等利息支出	77,586
借入金等返済支出	960,120
施設関係支出	4,217,277
設備関係支出	2,142,026
資産運用支出	7,255,104
その他の支出	759,679
予備費	110,600
資金支出調整勘定	△ 518,136
翌年度繰越支払資金	9,984,559
<b>支出の部合計</b>	<b>51,587,529</b>

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

## 2025年度事業活動収支予算（学院）

（単位：千円）

		科 目	2025年度予算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	20,571,734
		手数料	1,035,718
		寄付金	714,718
		経常費等補助金	4,129,621
		付随事業収入	768,324
		雑収入	1,014,197
		教育活動収入計	28,234,313
	支事業の活動の部	人件費	17,036,722
		教育研究経費	11,126,245
		管理経費	2,079,857
		教育活動支出計	30,242,824
教育活動収支差額			△ 2,008,511
教育活動外収支	収事業の活動の部	受取利息・配当金	758,233
		その他の教育活動外収入	450,000
		教育活動外収入計	1,208,233
	支事業の活動の部	借入金等利息	77,586
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	77,586
教育活動外収支差額			1,130,647
経常収支差額			△ 877,864
特別収支	収事業の活動の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入（施設設備指定分及び現物寄付含む）	324,181
		特別収入計	324,181
	支事業の活動の部	資産処分差額	415,329
		その他の特別支出	0
		特別支出計	415,329
特別収支差額			△ 91,148
【予備費】			110,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 1,079,012
基本金組入額			△ 3,072,326
当年度収支差額			△ 4,151,338
前年度繰越収支差額			△ 12,951,402
基本金取崩額			240,000
翌年度繰越収支差額			△ 16,862,741
（参考）			
事業活動収入計			29,766,727
事業活動支出計			30,845,739
事業活動収支差額			△ 1,079,012

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。